

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### 晩秋の生きもの

松本美千代(千葉市)

日 時：2010年11月7日(日) 天候：曇り

参加者：9名(大人7名 子ども2名)

担当指導員：田井中信子 松本美千代

温暖化現象で、今まで西南の方でしか見られなかったものがどんどん北上してきているという(ナガサキアゲハ・クロコノマチョウ・ツマグロヒョウモンなど)。

反対に暑さに弱い生きものがいなくなるということも？

毎回、人為的な生きものの持ち込みや持ち出しをしないということをお願いしている。

昔ながらの自然が残る生きものの里はどうだろうか。

観察日は立冬、暖かくなってきているというが冬は生きものには大変な環境変化である。それをどういう姿で乗り越えていくのだろうか。虫などを実際に採集し調べてみることにする。

用意した捕虫網・透明カップに紙片などを渡し、使い方の説明をする。糸を張ったクモなどはその場で観察することにする。虫かごや容器には仲間ごとに入れてもらう。捕まえた虫は元のところに戻すようにする。

#### 1) 入口広場～駐車場脇の林縁

ジョロウグモの網がいたるところに張られ♀・♂がみられた。シラカシの葉を重ねた間の卵のうをジョロウの♀が守っている姿もみられた。(3日前は卵のうが落ちないように葉と葉を糸でぐるぐる巻いていた) オオカマキリの卵のう、キバラヘリカメムシ(採集)、トビナナフシ(採)、ワキグロサツマノミダマシ、マルカメムシ、ゴミムシ(採)、ダンゴムシ(採)、明るく開けたところでヤマトシジミ(採)、名前の通りオンブ姿のオンブバッタ(採)、ショウリョウバッタ(採)、セスジツユムシ(採)、ヌルデに逆さに止まっていたキタテハが飛び出す。ギシギシの葉の上にまるまったハグロハバチの幼虫(その可愛い姿にこどもが喜ぶ)。2cm強のけむくじゃらなタケカレハの幼虫(採)をみつけたこどもは怖がる。(この小さな幼虫で冬を越し、名前のような枯れ葉に似た成虫の姿を見せてあげられたら気持ちが変わるかな?)

#### 2) 杉林

ヒダリマキマイマイ(採)、ミミズ、ザトウムシ(採)、ヒカリキセルガイ(採)、道に落ちていたシロテンハナムグリ?の幼虫。

#### 3) 田んぼ側道～下ノ畑階段登り口

2cm弱のヒメジャノメ幼虫(採)、コバネイナゴ(採)、ヤチスズ(採)、コカマキリ(採)、クロコノマチョウ(採)、クロウリハムシ(採)、シュレーゲルアオガエル(採)、アミガサハゴロモ(採)、2cmくらいの小さなアメリカザリガニ(採)、ニホンアカガエル、〇〇?アカネをみる。

#### まとめ

下見を参考にしたメモ帳で生きもの合わせし、成虫(体)、幼虫(体)、蛹、卵などの冬越しの姿を分類して終える。